2022 年 7 月発行（年3回発行）通巻 134 号

子どもたちの明日

Children, Our Future

2022 年 7 月
134 号

目次

・遠い村の一番乗り　1 頁
・運営委員会のチャレンジ　3 頁
・CYR 情報　4 頁

どこに行くにもボートで

遠い村の一番乗り

2021 年に地域に運営を移行したクロプープル村の幼稚園について、3 年間の支援と現在の様子をご報告します。

クロプープル村はプノンペンから車で約 2 時間、途中の村で車を降りてボートに 20 分乗らないといけません。雨季は村全体が水に浸かるため、学校や診療所、市場に行くにもボートが必要です。会が 2017 年に実施した調査では、村に住む 11 家族の貧しく厳しい生活状況がわかりました。米や野菜、魚取りで生計をたてるか首都で出稼ぎする家族、中には仕事がない家族もいます。どの家庭にもトイレがなく、川の水をそのまま飲んでいる 2 家族もいました。ほとんどが小学校の低学年までしか学ぶ機会がない人たちでした。

様々な NGO 団体が視察に訪れては、遠すぎるあまり支援には戻ってきませんでした。

その村に、会は 2018 年 11 月、「村の幼稚園」を開園しました。チャンノム先生は、地区長からの推薦と 6 歳以下の子どもの母親支援プログラムで働いた経験から保育者に選ばれました。

幼稚園に来るようになった子ども

クロプープル村のある地区では、小学校 1 年生で学校をやめてしまう子どもがたくさんいます。遅い登録が原因です。6 歳、7 歳になって初めて学校に行くので、クラスの環境に慣れるのがとても難しく、先生が怖い、新しい友達を作ることもできずに学校を休んでしまうためです。

クロプープル村でも、当初 5 歳の子どもの登録が実際に村にいる子どもの数より少ない状況が続きました。2018 年から 2021 年までの平均は 10 名でした。子どもが幼稚園から昼前に帰ってきても家で世話をする人がいないため、怪我や事故を心配した親が畑に連れて行ってしまうのです。この問題は親とも話し合いをしましたが、なかなか解決されませんでした。けれども、運営委員会で話を聞いた小学校の校長先生が、幼稚園に通わなかった子どもは小学校の入学を受けつけませんと話してからは、何人かの親は畑仕事を休んで子どもを幼稚園に連れてきました。CYK の支援の最後の年には村にいる 5 歳児の 83%にあたる 10 名が出席し卒園しました。今は 5 歳児 16 名が登園しています。

ソパニーさんの励まし

保育の仕事に価値を見出し、周囲からのサポートがあると、先生は仕事を続けて行くことができます。チャンナム先生は、保育アドバイザーのソパニーさんにとても感謝しています。「私の限られた能力を理解し、決して私を責めたりしません。ソパニーさんは、誰も完璧ではないのです、ベストを尽くしてください、そうすればあなたの仕事はもっともっと良くなりますと励ましてくれました。次のモニタリングでは、良い仕事をしましたね、もっと頑張ってください、誰も永久に長生きをすることはできませんがあなたが熱心に行う保育の取り組みは将来のすべての子どもたちのためになります、だからあなたの行いは、決して終わることはないですよ、という言葉を

モニタリング研修　ソパニーさん（写真右）と

かけてくれます。とても力づけられ、今でも保育を続けていく原動力になっています」

チャンノム先生の指導記録には、保育室内が綺麗に整頓されている、子どもとのコミュニケーションが良いなどの評価があります。一方、順序だてて子どもに教えることや活動の計画作りなどは不得手でした。特に日案はなかなか作ることができませんでした。そういったモニタリング時の研修で身につけることが難しかった部分を補ったのが３年連続で参加した 10 日間の能力強化研修でした、今では、子どもの接し方や教え方の順序だった方法、色々な報告書の記録、苦労した日案も書けるようになったと話します。幼稚園での保育より報告書や活動計画案を書く方がとても疲れます。クラスが終わった後、翌日の保育活動案を家で書くそうです。

ヒアンさんのサポート

地域の運営管理になってからは、地区評議会の女性と子どもの事業担当で委員会のメンバーでもあるヒアンさんという女性がよく先生の相談にのり、仕事を手伝っています。ヒアンさんは、CYK が開いた 10 日間の能力強化研修に先生と一緒に３年間、参加しました。最初は何をどう手伝ったら良いのかわからないと言っていました。記録や報告書が作成できているかを見たり、紙で花を折ったり絵をカットするなど、実際に幼稚園の仕事を手伝っています。地区の親に幼稚園へ子どもを送るように話すのはもちろんですが、地区評議会の会議に先生をよんで、幼稚園の報告と問題解決の話し合いをするようになりました。

地域の人々から集まる協力

自主運営になると親の協力金が減ってしまう幼稚園が多い中、クロプープル村の幼稚園では、全員から月１ドルの協力金が 100％集められています。元「村の幼稚園」の中で、クロプープルが初めて達成した快挙です。郡と地区のメンバーも計画通り月に１回モニタリングを続けています。

先生は子どもたちにもっと外遊具を作りたいと考えていました。運営委員会に相談し、古タイヤ集めに協力してもらい、いくつかの遊具を作ることができました。

また園舎前に渡り廊下を作りたいと頼むと、地域の有力者から１トンのセメントが寄贈されました。運営委員会のメンバーがもう１トンのセメントを買うお金を集め、渡り廊下が完成しました。子どもたちはトイレに行くにも草履にはき替えずに移動でき、快適に遊べるようになりました。最近、お坊さんからのご寄付があり子どもたち全員にノートとペンを買うことができました。

先生は今、建物のペンキ塗り替えと机や椅子などの修理を委員会に要望しています。子どもたちのおやつにもまとまった金額が必要となります。少しずつですが、先生と地域が協力して幼稚園の地域での継続運営に成果が出始めています。

出来上がった計画の説明　トロピエンボーン村の委員会メンバー

運営委員会のチャレンジ

会は今年新たに、「村の幼稚園」運営委員会が自らの役割について理解を深める支援を開始しました。これまでは幼稚園で困ったことがあったときや保育者から問題解決の要請があったとき委員会で話し合い、その都度対応してきました。委員会の役割を定義しているのは内務省ですが、具体的な指導が行われていなかった現状もあります。しかし、自主運営に移行した幼稚園の維持費には地区に交付される内務省からの予算が充当されるため、委員会が十分に機能していることが重要です。そこで、CYKの保育アドバイザー・ソパニーさんを中心に、州の教育局幼児教育担当者と「村の幼稚園」のある5郡の幼児教育担当者が相談し、委員会の勉強会を実施しました。

委員会の役割

5月4日から7日にかけて開催された勉強会には、8ヶ所の「村の幼稚園」運営委員会から23名が参加し、13項目にわたる委員会の役割を学びました。

①クラス内環境を充実させるための年間計画を立てる　②保育者の採用と評価　③月次会議の開催と記録　④資金調達　⑤３歳から５歳未満の子どもを持つ保護者に幼稚園に通わせるよう呼びかける　⑥幼稚園に登録した子どもの保護者向け学習会準備　⑦ 保護者会開催(最低３ヶ月に1回)　⑧ 幼稚園をフォローアップし地区長に報告
⑨ 地域幼稚園スタンダード認定を目指して審査項目に沿って評価する
⑩ 子どもの人口調査 (0～５歳児、ハンディキャップ・少数民族を含む)
⑪ 幼稚園の備品・教材の補充と管理
⑫ 外遊具の設置　⑬ 修理・増設の必要があれば工事を発注し監督する

委員会の計画

役割を理解した各委員会は、13項目の中から優先的に取り組む活動を年次計画にまとめました。
今までも園舎建設、備品管理、運営委員会の開催、幼稚園への登録キャンペーン、保護者会の開催などは実施してきています。そこに、幼稚園が地域幼稚園のスタンダードに適合しているかの評価、0歳から6歳児データの取りまとめ、保育者評価報告書の提出などが追加されました。中には、国旗掲揚台づくり、保護者のグループづくり、保育者の評価方法に自己評価を組み込んだ幼稚園もありました。

どの委員会も計画に入れたのが資金集めです。募金イベントの開催、プノンペンで働いて成功した村出身者へのお願い、保護者からの協力金、お寺に置く募金箱、他のNGO団体への要請など、具体案が決まりました。地区評議会にも予算割当を増やすよう要請します。

意識の高まりと成果

勉強会に参加して委員会メンバーの意識が大きく変わったのが、トロピエンクロプー村です。地区評議会は幼稚園をサポートしているものの、村長や小学校の校長はあまり協力的ではありませんでした。これまではメンバーとしての仕事ができていなかったと強く感じた女性の小学校長は、すぐに小学校で使っている水と電気を幼稚園でも使えるように男性

州の担当者も一緒に年間計画を検討

の先生に頼んでパイプや電線を伸ばしました。そして保護者に呼びかけたところ、天井から下げる扇風機3台を受け取ることができました。
より活動に積極的になったのがコンポンバスロータボン村でした。通常、委員長は副地区長がなることが多いのですが、この委員会では意欲の高い地元の名士が選ばれました。ちょうどよい敷地がなく、川べりにたくさんの土砂を埋めて基礎固めをして「村の幼稚園」を開設しました。庭が狭く樹を植えるスペースがないので、園舎の外の環境を整える計画を立てました。まず川からポンプで水をくみ上げ、パイプをつないで手洗い場に流しました。今までは、貯水タンクの水を蛇口付きバケツに受けて手洗いをしていました。教室からトイレまでセメントを敷き素足で往復できるようにし、園舎の周囲に広く屋根をつけ、炎天下でも遊べるようにました。また子どもが川に落ちないように煉瓦の塀を作りペンキを塗りました。
チュンペア村では園舎の前に長い屋根をつけて学校行事に多くの人が集まれるようにしました。
トクホート村は小学校の建物を修理して幼稚園を開いたため、トイレは兼用でした。今年幼稚園の子ども専用のトイレを作る計画です。また同委員会は協力金を払っていない保護者に会って月１ドルの協力を呼びかけています。
別の幼稚園でも、恥ずかしがりの保育者に代わって校長先生が送迎に来る保護者と会話し、最後に協力金のお願いをしています。

勉強会で作成された運営委員会の年間計画は、それぞれの地区評議会にも報告されました。委員会はメンバーで話し合って決めた計画を実行するというチャレンジを始めました。これからも地区評議会、幼児教育担当者、地域の人々と連携し、その役割を果たしてゆくことが期待されています。

コップと手拭きをかけるスタンドができた

CYR 情報

2023 年カレンダー

フォトジャナーリスト高橋智史さんからカンボジアの子どもたちの日常が感じられる写真をご提供いただき、カレンダーを製作します。

11 月にお届けする次号ニュースレターに申込書兼振込用紙を同封しますので、そちらに記入してご注文ください。

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替　　00110-8-36227
三菱 UFJ 銀行　六本木支店（普通）1351747
特定非営利活動法人幼い難民を考える会

幼い難民を考える会（CYR）は認定 NPO 法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。

子どもたちの明日 134 号
発行日：2022 年 7 月 31 日　発行者：藤川　祥子

プノンペン事務所（CYK）
Borey Piphub Thmey Chhouk Va III, #55,St.95,Prey Sala Village, Sangkat Kakab, Khan Posen Chey,
Phnom Penh, Cambodia
TEL: (+855) 23 882 972　FAX: (+855) 23 882 971
Email: info@cyk.org.kh
URL: http://www.caringforyoungkhmer.org/

特定非営利活動法人幼い難民を考える会
東京事務所（CYR）
〒110-0016　東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル3B
TEL: 03-6803-2015　FAX: 03-6803-2016
Email: info@cyr.or.jp　URL: https://www.cyr.or.jp/